

学校運営方針		学校運営計画(4月)	評価(3月)
昨年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標	次年度の主な課題
昨年度は、開校20周年のさらなる飛躍に向けた新たな一歩を踏み出す節目の年として、これまでの教育活動を振り返るとともに、「学習意欲の向上」、「基本的生活態度(自己管理能力)の涵養」、「自己実現能力の育成」を教育活動の柱として、教科指導の充実や生活指導の徹底、進路指導の充実に加え、単位制三部制の特性を活かしたさまざまな活動に積極的に取り組む、学校の活性化に教職員が一丸となり、その成果も徐々に現れている。そのため、教師個々の授業力や生徒指導力等の教師力の向上に向けた昨年度からの取組より深化させ、学校としての組織的指導力、いわゆる学校力の向上に取り組み、学校の活性化を推進する。また、生徒が自信と誇りを持ち、充足感のある学校生活を送り、加えて、生徒一人ひとりの特性に応じた進路実現を目指すべく、同一層の教育活動の充実を目指す。さらに、学校と家庭及び地域社会との連携を強化し、「志をもって意欲的に学び、自律と思いやりの心をもつ、たくましい子ども」の育成」に向けての取組を推進し、生徒と保護者、そして地域社会から信頼される学校を目指す。	授業の充実より、生徒の学ぶ意欲の向上と基礎学力の充実に向け、 学習指導研究会や授業評価等により授業改善に努め、「分かる授業」の実施と授業規律の確保により、生徒の学習意欲を高め、出席率、単位取得率の向上を図るとともに、 自己管理能力の育成を図るとともに、修学支援体制を強化し、 修学意欲の向上を図る。 キャリア教育の推進と特別進学クラスの特化を図り、生徒の希望進路実現を目指す。 家庭及び地域・社会との連携を強化するため学校情報の公開に努める。 国際理解教育や環境教育を推進し、国際感覚の涵養と環境問題への意識の高揚を図る。 人権教育を推進し、人権意識の高揚と人権尊重の精神を涵養する。	カリヤ教育を推進し、生徒の自己実現能力の育成を目指すとともに、系統的・計画的指導体制を構築し、進路指導の充実を図る。また、特別進学クラスの指導内容の充実や就職指導の強化により、生徒希望進路実現に取り組む。 特色ある教育活動、学校行事等の学校情報を積極的に発信・公開し、家庭及び地域・社会との連携協力体制の強化に努め、教育活動の活性化を促進する。 海外研修等の国際交流事業やESD事業を推進し、環境問題への意識の高揚と異文化理解やコミュニケーション能力の育成を図る。 人権教育週間や人権講座をとおして生徒の人権意識や自尊感情を涵養し、いじめや差別のない学校づくりを推進する。	
教務部	授業改善に努め、「分かる授業」の実施により、基礎学力の充実に努めるとともに、「科来の夢に向かって、学ぶ意欲に溢れた生徒」を育成する。		B
教務課	学習指導、HR活動・総学の充実及び出席率の向上	学習指導研究会等により授業改善に努め、「分かる授業」の実施と授業規律の確保により、生徒の学習意欲を高め、出席率及び単位取得率85%を目指す。 「贈る教育」や「獲める教育」の実践を年間テーマとした取組をひびきプランの中で行う。 各課で、「生徒がやりがいを生かせるように配慮する」ために、学校生活や自分人生に充実感を感じることができるよう支援するHR活動・総学を推進する。具体的には、学習のために大切なことを伝えるよう計画する。「ひびき検定」(年3回実施予定)を活用し、学習の意義・希望進路の決定・本校のルール等を理解させる。 「生徒意識調査」を年3回実施し、分析については迅速に行い、教育活動全般にフィードバックさせていく。 欠席がちな生徒の情報を講師担当やHR担任・年次で共有し、家庭との連絡を密にするなどの連携を組織的に行う 生徒の進路希望を実現させる時間割マスタを作成するため、教育課程研究委員会等と教科やガイダンスと充分協議を重ね検討する。また、学校設定科目の設置も検討する。	C B B B B B B
	広報の充実	定時制単位のしくみを中心とした本校のシステムに関する広報資料を作成するだけではなく、各分室との連携を図りながらPRすべき本校教育活動を再確認し、本校生徒の協力を得ながら中学生等と保護者に対して本校の魅力が伝わるよう広報資料を迅速に作成する。特に、今年度の進路ガイダンスの作成を行う。 中学校訪問については、昨年の形式を踏襲しつつ積極的に実施する。また、本校の教育活動について理解を深めるため、中学校が実施する体験授業や上級学校説明会をはじめとする広報活動に積極的に教員を派遣する。 学校説明会・体験入学会については、実施目的を明確にし、内容、実施場所の検討を行った上で企画する。特に、体験入学会については、本校ならではの魅力ある体験授業が企画できるよう授業担当者の協力を仰ぎ、参加者の10%増を目指す。 年2回の入試業務研修会を行うことで、本校の入試のしくみを全職員に周知する。中学生進路相談事業や緊急時の入試相談に対応すべく、校務運営委員も入試相談に応じることができるよう体制づくりを進める。また、入試相談マニュアルを作成する。	B B B B B
庶務課	情報機器や個人情報の管理	各部との早めの緊密な連絡・調整を行い、別別行事予定表を生徒配布予定日の2週間前まで完成させる。また、諸会議や諸行事の記録・管理・検証を1週間以内で整理し、清掃は、年次及び月1回の輪番制で行う。 教務支援システムの安定化や円滑な活用、および個人情報セキュリティ面の重要性を再認識するために連絡協議会への情報提供、最低年1回の職員研修を目指す。	C B
	福利厚生およびPTA活動の活性化	教職員の福利厚生の充実を図るために、連絡内容を出席簿の横に提示する形で周知徹底を図る。 保護者教師会の活性化に向け、役員会、執行委員会への参加参加率を20%増を目指す。本校職員についても輪番制での出席参加を促す。また、開放講座等において保護者同士の懇談会(茶話会)を設け、保護者同士の連携を強化するとともに、PTA研修会発表の成功を導く。	B
生徒指導部	心豊かに進んで生き生きと育ち、自主性や自己責任力の伸長を図る。また、安全安心を確保しやすくなる環境、春・秋・体験活動とおおてとよき学びの場を提供し、豊かな創造性・人間性を育成するとともに、地域の信頼にかなえる学校を目指す。飛躍の年の2年目として、「教員と生徒・生徒間の円滑な人間関係」を継続したテーマに掲げ、改善した企画を立案する。		B
	基本的な生活習慣の確立	「マナーアップひびき」(毎日校内4回、校外1回)や校外マナー指導(年5回)により、自ら快適な教育環境維持に努める生徒を育成し、問題行動を未然に防ぐ環境作りと、安全・安心と規律・マナーの向上に努める。また生徒の安全確保のためIDカードの着用率100%を目指す。 反社会的行為については特に厳しい態度で臨み、再発防止に向け指導を徹底する。また、昨年度に引き続きかがみ指導を継続し、週1回は見るようSRRに代わる連絡体制づくりを推進する。 毎週のHRで生徒指導部からの「取メモ」を活用し、機会あるごとに呼びかけを行い規範意識を高め、地域に愛される学校作りのため、朝夕の校門指導・校外巡視・夜の門立ち・地域ホームをを行い、規範意識の高揚と問題行動の抑制・防止(前年度比10%減)に努める。	B B
生徒指導課	学校行事、生徒会活動の活性化	「ひびきプラン」のひとつである年間5回の「きりり週間」実施に向け、「あいうえお作文」を全校生徒から募集するなど生徒が主体的に取り組めるような工夫をすることにより、自尊感情の高揚に努める。 ひびきアスキーアップ(自助共助)を実施し、部活動参加率30%を目標に掲げ、生徒間の交流の良い機会とし、学校の活性化を図る。 生徒会活動や部活動の更なる充実のための企画を立案するとともに、美化活動や奉仕活動の活性化を図り、魅力ある活動を推進する。具体的には校外清掃活動をさらに充実させ、50名以上の参加を目指す。生徒の自主的活動を支援し、学校全体で地域に根ざした取組づくりを目指す。 ひびき祭などの学校行事の充実を図り行事出席率(75%以上)を向上と、生徒のコミュニケーション能力の育成に努める。昨年度、新たな取組として職員の居住区域を生かした生徒との人間関係づくりの企画を立案した。継続してよりよい企画を立案し、多面的な生徒理解を目指し取り組む。	A B B
	安全教育等の充実	校内交通安全教室を年2回実施し、交通ルールを遵守する意識を高めるとともに、登下校中の通学マナーの向上を促す。 窃盗や暴力乱用等をテーマにした講演会等を年2回企画し、非行防止教育を推進する。 ホームループの多動体の中でインターネット等通信機器の適正な利用方法について指導し、情報社会のなかで自分自身を守るスキルの育成に努める。	A A B
生徒指導部	不登校や中途退学の未然防止・抑止	遅刻や欠席の多い生徒、長期欠席者、その保護者に対し、担任、年次主任を中心とした年次指導がさらに充実するよう支援体制作りを強化する。その具体的な取組のひとつとして、毎週実施される修学課の資料づくりで情報交換し、具体的な対応策を会議前に必ず検討する。 修学課会議では、対象生徒の確認と状況把握を行い、担任等との連絡を密にし、具体的な対応策を決め、前年度比、修学課会議対象者20%減を目標とする。 生徒の修学支援体制の充実を図り、不登校や中途退学の抑制・防止(前年度比20%減)に努める。また、担任の抱え込みを防ぐため、相談しやすい体制による生徒情報交換会などを通じ、積極的に支援組織を活用することができるよう呼びかけを行う。	B B B
	進路指導	毎月1回実施する生徒情報交換会を通して、全職員で情報を共有し、職員間の連携を図り生徒の学校生活の充実に向けて支援する。また、校内研修会などで本校の支援体制の中で対応した成功事例を挙げ、職員間で共有する機会を設ける。 教科担当や担任との情報交換を密にすることで「3・6ルール」を含めた対応を確実に実施し、家庭との情報交換を密にする。教務部との連携及び年次主任の協力を得て、年次主任の生徒指導体制をさらに構築する。 「いじめ」に関する職員研修会(年1回実施)や生徒への「いじめアンケート」(毎月実施)、「家庭用チェックリスト」による調査、「家庭用アンケート」による調査(年2回実施)を実施することにより、早期発見・早期対応に努め、「いじめ」の防止・撲滅に取り組む。また実施後の報告手順についてもまとめたプリントを作成し、徹底を図る。 教育相談体制の構築に向け、SSW、SC、訪問相談員のそれぞれの担当者間で情報交換を密に行い、迅速な対応(対応)ができるよう毎月1回情報交換を行う。 修学を支援するための校内体制の充実 「ひびきプラン」の地域別交流会を活用し家庭訪問等の指導に繋げている。	B B A B
修学課	生徒理解に向けた取組の充実	諸検診での生徒の動きをスムーズにするため、時間設定を検討し、先生方への事前連絡を徹底する。身体測定と検尿検査および心電図検査・結核検査について追跡検査を行い、健康診断受診率を100%にする。 保健室利用については、IDカード着用や携帯使用禁止等のマナーを徹底させ、様々な生徒が利用しやすい保健室の雰囲気づくりを行う。	A B B
	健康相談の充実	性と心の相談事業、SC、訪問相談員、SSWを活用し、校内コーディネート担当者間で連絡会を月1回実施するなどして組織的な支援を行う。 4月当初に「健康教室」として、全校生徒を対象とした「命の大切さ」をテーマに講演を実施する。 学校環境衛生検査を年1回実施し、検査に基づいた適切な処置を行う。 通常の清掃分担割作成を授業開始時に提示し、生徒の清掃意識を早く定着させ、「ひびきプラン」の「きりり週間」の目標の一つに「掃除きりり週間」を設定し、生徒の意欲向上を図る。 掃除道具の点検・整備を前・後期1回実施し、掃除道具を充実させる。 毎月1回「クリーニングアップひびき」を実施し、その中で年1回校外清掃を行う。	A B A B B
保健	環境整備に向けた取組		

ガイダンス部	ガイダンス	生徒自ら責任ある社会の一員として将来像を意識し、主体的に自らの進路を選択・実現することができるように「生徒も動く、教員も動く、攻めの進路指導」を実践する。 1 キャリア教育の確立とガイダンス機能の充実 2 第一志望の合格に向けた進学意欲の高揚と学力向上 3 就職内定100%に向けた勤務先・職業観の育成と就職支援の充実	B	1 校内検定導入に伴い、教務部と連携し、基礎講座における義務教育段階補講導入の導入に取り組む。
	ガイダンス課	教育課程の完全移行を受けて、平成27年度以降の本校受講ガイダンスの理念及び開設科目の内容を新転任者を含む全職員が理解し、受講ガイダンスが円滑に出来るように資料や校内研修の充実を図る。 受講ガイダンスの円滑な実施 職員全体の力量向上を目指し、年5回研修会を実施する。ファイルを配付し、資料を蓄積していくように指導する。 職員及び職員全員が受講ガイダンスの内容や進捗状況を把握し、情報の共有化を図ることができるよう、教務課、各教科と連携した資料作成を行う。 受講ガイダンス全般における年次担当者の役割向上を図るとともに、課内会議と職員会議開催時に実施する。 近未来ガイダンス等のガイダンス行事において、外部の人的資源を活用し、活性化・効率化を図り、「生徒が早期に希望進路を決定できるよう働きかけ、進路決定率向上に繋ぎ出す」	A B B B A	2 HR・総学の内容を統制し、関係課等での定期的な会議を設け、年次指導を支援する。 3 高大等連携事業において地元国公立大学等と事業提携を進め、進学意識の高揚と特進クラスの特徴に繋げる。 4 就職指導において、事務局・販売開閉組向け、各企業の店長会議、理事会等に参加せしめよう功率の良し取組を模索する。また、校内のインターンシップに取り組み、早期の就職活動の意識付けを行う。
ガイダンス部	進路指導課	希望進路実現に向けた取組の充実 特別講座と勉強会等の充実を図る。教科と連携して特別講座の内容を充実させ、出席率90%を目指す。また、勉強会の施設を変更して教科指導の教員数を増やし、指導内容を充実させ40名の参加を目指す。 個別指導による追加・補入入課の対応を充実させる。生徒の進路目標や適性に応じて早期の個別指導を実施し、4年生大学のAO・推薦入試で10名の合格を目指す。 新人・在校生年次のホームルームを実施し、小論文の基礎を体験させる。受験生には小論文模範を実施し、国語科と連携して指導体制を整える。 新人・在校生年次の相談は事後指導を実施し、成績表の見方や進路目標に向けた学習内容・学習時間等を指導する。また復習は、教科担任と連携して外部機関の提供するITによる復習を促進し、生徒の利用を促す。 進学にかかる費用や奨学金・特待生制度等の情報を新人年次より提供する。また、外部講師による保護者対象の進学費用講座等を実施し、進学決定に繋げる。 「進学の手引き」について、昨年度の卒業生や年次主任の意見を取り入れて改訂し、生徒や担任が使いやすいものとする。 クラスの特徴に応じてミューティングの内容を調整し、参加率90%を目指す。また、担任を通じて 適切な進路情報の提供を行い、自学スタイルを確立させ、模試・特別講座の参加率100%を目指す。	A B C C A A A A	
	進路渉外課	勤労観・職業観の育成 希望進路に向けた指導の充実 本人開拓の内容充実 公開授業(研究授業、授業相互参観)による授業研修をはじめ、生徒による授業評価を実施し、授業の充実を図る。また、関係分散との連携を深めることにより校内研修体制の充実を図り、教員一人ひとりの教師力の向上により教育活動の活性化を推進する	B A B B	
	修部	研修の充実 授業の充実 図書教育の活性化 学校行事の円滑な運営	A B B A A	学習指導研修会においては、教務部と連携して実施することができたので来年度以降も引き続き連携を強化し、わかる授業の充実と畜与していきたい。授業相互参観は大きく参加数を伸ばし、全教員が少なくとも2回参観する目標を達成することができた。初任者研修を含めた研究授業は約20回実施することができ、多くの教員が参加し、未参観職員も必ず研修が最低1回参観することを旨とする。 新着図書案内及びOPIの発行で生徒へ図書館利用の向上を図ることができた。また、生徒が夏期研修等へ積極的に参加できるとともに、引き続き生徒への活動の支援を行う。 生徒海外研修はハワイでの研修に反し、非常に充実した研修となった。しかし、現在の形態では担当者及び引率教員の負担が大きいため課題とする。
	新人年次	本校の教育システムや学習形態を十分に理解させ、自・自・自の精神を醸成し、基本的生活習慣を身に付けさせる。また、学習活動への積極的な姿勢、態度を育成する。 基本的生活習慣の確立を目指すし、あらゆる場面で生徒へ声をかけ、礼儀正しい態度を育成する。 4月・10月スタートでのタッチパネルの活用を100%徹底させる。 生徒指導の徹底 電話連絡・家庭訪問・保護者面談等を通じて家庭との連絡を密に行い、生徒指導にあたる。修学課、訪問相談員、SCやSSW等と緊密な連携のもと、生徒の修学を支援する。 問題行動の抑制・防止(前年度比20%減)を目指すとともに、中途退学者数を減少(前年度比20%)させる。 学習指導の充実 生徒に「分かる授業」に向けて指導方法や指導内容の工夫・改善により、基礎学力の向上に努める。 進路指導の充実 進路適性検査、近未来ガイダンス、進路希望調査や進路に応じた時間割り作成等を通じて、自己の興味・適性を認識させる。 「いじめ」に関するアンケートを毎月実施し、早期発見・早期対応により「いじめ」撲滅に努めるとともに「いじめ」を生まない教育活動を推進する。 人権・同和教育の推進 人権教育週間(6月・11月実施)を有効活用し、生徒の人権に対する意識の高揚させ、人権感覚を醸成する。	A A B A A A A A A A	入学当初の4月および前期研修時間の10月にタッチパネルの指導を徹底することで、連絡事項をしっかりと確認させるとともに、生徒自身が出席状況の把握を早期に行えるようにする。 問題行動の抑制・防止は、年間を通しての重点事項として、生徒自身が出席状況の把握を早期に行えるようにする。 問題行動に関して、生徒指導課と担任だけの指導となっていることあるので、年次全体の問題として捉えるために問題行動を起こした生徒の事後指導と担任だけでなく、年次全体で取り組むようにする。 進路指導を形成するために、ガイダンスを連携して入学当初からキャリア教育を行うようにする。 年次・教務課間の連携に関しての共通理解を深めるためにミーティングの時間設定をするようにする。
	在校生年次・II部	自主性・自己管理能力の育成や生徒一人一人の個性・能力の伸長 生徒指導の徹底(規範意識の醸成) 学習指導の徹底(学力の向上) 進路指導の充実 人権・同和教育の推進(人権意識の高揚)	A B B A A A A A A A A A A	1 入学当初の4月・10月のタッチパネルを毎日開く指導を徹底するとともに継続的な指導を行う。生徒への連絡を密に行い、適切な指導を提供していく。毎日、生徒へのメッセージがタッチパネルの中に入るとともに、年次全体で工夫する。 2 定期的な年次集会を効果的に開催する。特に、4年度初めの年次集会を1日の時間確保し、年次の目標や年次の雰囲気づくりに、部活を含め、年次全体で進路実現に向けて高い目標意識を育てていく。 3 保護者面談・家庭訪問等を随時行い、進路指導を徹底するとともに、年次全体で生徒への意識・認識を共有し、修学課を中心として、SC、SSW、訪問相談員との連携を密に行う。 4 来年度、在校中に残る生徒が多いので、生徒情報をきめ細かく次年度、担任に引き継ぐ。
	次	一人一人の自己実現に向けて、自ら学ぶ態度および自ら考え行動できる資質を醸成する。また、生徒の個性・能力・社会性を伸ばし、生徒自身が学力および能力の向上を認識できるようにする。そして、規範意識を確立させ、基本的生活習慣を身に付けさせる。そのために、年次の教員間および保護者との連携を密にし、年次部全体で生徒情報を共有し、生徒理解に努め、迅速かつ生徒にとって適切な対応に心がける。 週1回ミーティングをもち、迅速かつ率直な情報交換をする。 当番の時間以外でも可能な限り下校指導を行うことにより接打の指導をする。 生徒指導の徹底 生徒と一緒に給食を摂るなどして、給食時における生徒の状況を観察することにより、生徒間の人間関係の把握に努める。 問題行動の抑制・防止(前年度比25%減)に努める。 修学課、訪問相談員、SC・SSW等との緊密な連携により、修学支援体制を強化し、不登校の防止に努め、中途退学者数を減少(前年度比20%減)させる。 年度当初の部集会・HRを通じて単位修得に対する動機付けを行い、授業出席率の向上(80%)と単位修得率の向上(修得率80%)を図る。 理由もなく欠席した生徒に関しては、早期の段階で保護者面談を行う。 保護者面談しても改善しない生徒、欠席を繰り返す生徒に対して複数教員での家庭訪問を積極的に行う。 個人面談週間を実施(年2回)し、生徒理解を深める。 生徒理解に基づいた適切な受講ガイダンスを行い、希望進路実現への第一歩とする。 就職希望の生徒に対してHRにおいて就職問題集に取り組みするなど、基礎学力の向上を図る。 年次通信を定期的(年9回)に発行し、家庭との連携強化を図る。 2月の保護者面談において、進路に関して学校・本人・保護者の共通認識ができるようにする。 校外清掃等、ボランティア活動への参加を推奨し、奉仕的精神の醸成に努める。	B A A A A A A A A A A A A A A	1 年次ミーティングを毎日短時間行い、常に生徒の新しい状況を把握し、年次全体で生徒にあたる。 2 単位修得・時間割作成・授業規律・生徒指導等4月当初より繰り返して生徒への指導を続け、前期の早い時期に生徒の意識を高める。 3 生徒個人面談と保護者面談を年度当初に実施し、進路に関する共通認識の下に進路指導を行う。 4 授業出席率の向上と単位修得率の向上、問題行動の抑制・防止に努める。 5 SC、SSW、訪問相談員と連携し、生徒状況の変化に早期対応することで長期欠席生徒・退学者・校納金滞納生徒を減少させる。
卒業生年次	進路指導の推進(進路目標の実現) 学習指導の徹底(発展的学力の向上) 生徒指導の徹底(自己管理能力の育成) 人権・同和教育の推進(人権意識の高揚と人間尊重精神の醸成)	A B A A A A A A A A A A A	1 単位を安易に落とさずして1年生が増加しているため、本人・保護者との面談等を通じて生徒の生活態度を把握するとともに、進路目標実現のための具体的な方法を提案する。また、3・6・9ヶ月の徹底を図り、欠席の状況だけでなく、保護者へ具体的な協力の提案をする。 2 きめ細かく進路指導を実施するためにクラス編成の工夫や後期HR活動の工夫をする。また、就職試験前夜や入学入試後で3日間指導を実施し、組織的に保護者・本人との情報交換を図る。 3 担任にとって対応が難しいケースが多くなっており、これまで以上にSC・SSW、訪問相談員等と連携しながら組織的に対応するとともに、同僚に対処結果を担任に連絡する体制づくりを図る。	